

## 題

2020.9.30

仏教寺院になぜ道教的蓬萊鶴亀庭園があるのか\*1

井村 治\*2

伝統工芸と京をガイドする会\*3

## 問題

諸行無常\*4 を説く仏教寺院になぜこれに相反する不老長寿\*5 を説く道教思想\*6 (神仙思想\*7) に基づく蓬萊鶴亀庭園#\*8 が存在するのか疑問を持った。

事実、京都の仏教寺院に多くの蓬萊鶴亀庭園が見られる。京都 (滋賀を含む) の仏教寺院に 60 の蓬萊鶴亀庭園 (以後蓬萊庭園または蓬萊鶴亀庭園) が数えられた (表 1)。その作庭時期は奈良期に始まり、我が国に本格的に庭園が造り始められた平安から令和にわたる。池泉庭園\*9 (23) にも枯山水庭園\*10 (37) にも蓬萊庭園が見られる。また、日本の主要な仏教宗派全ての寺に蓬萊庭園が存在する。

# : 蓬萊山、鶴及び亀またはいずれかを象徴する築山、石組みまたは島のある庭園。

## 神仙思想と日本

神仙思想とは、中国において発生した起源の古い民間信仰\*11 の 1 つである (下出 1968、神塚 2020)。中国戦国時代 (前 403～前 221) に山東半島の北部沿岸地方において、方士 (神仙の術を行う人) と呼ばれるものが「方士の法によって養生節制すれば不老長寿が可能で、これを体得したものが神仙\*12 であって、はるか東方海上にある蓬萊、方丈、瀛州 (えいしゅう) という三神山\*13 に住み幸福な生活を送っている」と唱え、これを神仙説という。中国の伝統宗教である道教にはこうした神仙説を中心とした (民間道教) と、それに道家・易\*14・陰陽\*15・五行・卜筮 (ぼくぜい)・讖緯 (しんい)・天文などの説や巫 (ふ) の信仰を加え、仏教の体裁や組織にならって宗教的な形にまとめられたもの (成立道教、教団的道教) があり、不老長寿を主な目的とする現世利己的な宗教と言える (下出 1968)。また道教や神仙思想では、亀が蓬萊山などの仙山を支えているとされている。鶴は仙界に舞う鳥であり亀とともに長寿の象徴と考えられてきた (宮崎 2018)。我が国には神仙説を中心とした民間道教は伝えられたが (仏教伝来より古い)、宗教としての成立道教は確立しなかった (下出 1968)。

日本には別に白鳥伝説や浦島伝説 (海幸・山幸神話-海宮遊幸) があつた。神仙境\*16 に相当するのは常世 (とこよ) 国であり仙女が住む。常世は仏教思想以前の古い伝統に培われた思想として我が国に深く根付いたものと言える (木村 1990)。8 世紀において我が国の常世国の有する永遠の意味が次第に長寿という形で代表される傾向が決定的になり (下出 1968)、常世観は次第に神仙思想へと展開して行った (木村 1990、神塚 2020)。そもそも山や川に神々が宿るという中国の神仙思想は、山や森や川に神が宿るという日本古来の思想 (上野 2015) と共通していた。

## 日本の仏教

日本に伝えられた大乘仏教<sup>\*17</sup>は古代インドでは他の部派仏教と厳しい論争を繰り返し、孤高を保ってきた(中村 2002)。しかし、日本人が接触した仏教はほとんど例外なしに中国の仏教であった(渡辺 1958)。大乘仏教に関しては、その多仏思想<sup>\*18</sup>が多数の神仙の存在と、また神仙の住む浄境楽園が浄土<sup>\*19</sup>と重ねられて理解された。浄土教思想と神仙思想の混同は、浄土教教義の根幹をなす「阿弥陀仏」を「無量寿仏」として理解し、「無量寿」という漢訳名が、表意文字<sup>\*20</sup>を用いる中国民衆によって「不老不死」を説く神仙的なものとの関わりで理解された(松尾 1992)。さらに中国では、インドからの仏教經典の重要概念を表す語の訳語として道教經典「老子」に出てくる語が多く用いられた(神塚 2020)。また中国には儒教も道教も仏教も根本は同じという「三教帰一」がある(島尾 2019、神塚 2020)。こうした中国仏教が日本に導入された。仏教は日本に導入後日本固有の宗教である神道と習合した。その神道は中国道教の影響を受け、神の依り代であるご神体<sup>\*21</sup>の鏡は道教起源と言う(井上 2006)。神塚(2020)は、日本では神仙と仏教との距離が中国よりもさらに近いという見方ができると述べている。

## 庭

我が国の庭園施設には、蓬萊山や亀島、鶴島など神仙思想に関するものが多く、これらは中国古代庭園の影響を色濃く受けている。史記(前 226)によると、神仙思想に基づく庭園を造った最初のものとして秦の始皇帝の「蘭池宮」がある。長安に渭水(黄河の支流の一つ)より水を引いて池を造り、蓬萊、瀛州を造って石の鯨を刻んで置いた。始皇帝自身不老不死の仙薬<sup>\*22</sup>を得るため人を東海に派遣し、自ら山東半島に行幸して海に漂う蓬萊、方丈、瀛州を見た(蜃気楼と思われる)。前漢の武帝(前 156-前 87)は始皇帝に習って「上林苑」を造営し、中に池を造り蓬萊、方丈、瀛州の神山と亀や魚の類いの石を配した(河原 2004)。中国では引き続く時代にも蓬萊を配した庭園が造られている。

日本の庭園は、仏教伝来(6世紀)を前後して、朝鮮半島経由で大陸の庭園文化が移入されたものと考えられる。ことに遣隋使<sup>\*23</sup>(600年)や遣唐使<sup>\*23</sup>(630年)が派遣されると、隋唐の庭園様式が直接もたらされた。日本書記によると、推古天皇の世(612年)に渡来人の路子工(みちこのたくみ)が「小墾田宮(おほりだのみや)」の南庭に須弥山<sup>\*24</sup>と呉橋<sup>\*25</sup>を作った。蘇我馬子は飛鳥川の辺りの自邸に小さな池を掘り、中島を築いてこれは蓬萊島であったと推測される。奈良時代平城京に唐制に倣って内裏の四方に四苑を設けた。東は東院と称され、北岸に組まれた石組<sup>\*26</sup>は蓬萊石組と推測される(京都林泉協会 2002)。(明治期に平安時代の内裏を復元した平安神宮の大極殿を模した社殿の回りに小川治兵衛による東神苑の鶴亀庭園を含む四苑を今見ることができる。)

平安時代には土木工事をなし得るほどの経済力を貴族層が有していた。中期に浄土式庭園<sup>\*27</sup>が発生し、後期には浄土式庭園が主流となった(京都林泉協会 2002)。一方、扶桑略記(1094?)に、白川天皇が1086年に鳥羽山荘に後院を建てて、大池を構え蓬萊山を中心とした庭園を築いたとある。蓬萊山を構築することは造園上の一つの要素として近世まで及んでいるが、鳥羽山後院はその初期の例の一つであった(下出

1968、重森 1946)。

これまでは貴族の庭園であったが、鎌倉時代の後期に禅(仏教)の庭が発祥した。室町時代は禅庭が最も隆盛した時代であった。例えば、夢窓疎石は西芳寺の浄土式庭園を禅庭に改造した。また疎石は天龍寺の方丈の後ろに池泉廻遊庭園(曹源池庭園)を築き、正面に龍門瀑<sup>\*28</sup>を組み、滝前に石橋を架けた。池には鶴を象徴する石組と亀を象徴する島が配されていて、現存する日本最古の蓬萊鶴亀庭園と見られる(重森 2013、注:表 1 からはさらに古い庭園がある)。足利義満(1397 年)が北山殿を造営し、足利義正は東山殿(1482 年)の造営に着手した。いずれも蓬萊庭園であった(京都林泉協会 2002)。桃山時代、武将達が長寿延年を希求する意味から蓬萊式枯山水が著しく発達した(重森 1946)。高台寺圓徳院の枯山水庭園は伏見城の遺構といわれ鶴亀蓬萊が主題で、鶴島、亀島、蓬萊島に大きな石橋を架けるのが桃山時代の特徴であった。江戸時代初期は大名の大池泉庭園の隆盛時期で大名庭園の主題はやはり鶴亀蓬萊であった。中期以後庭園の普及化が始まり、商家や庄屋など一般民家にも作られた。明治・大正時代は豪商や資本家が池泉庭園を造った。

仏教寺院だけでなく、神社や大名の庭園にも蓬萊庭園が造られている(表 1)。もちろん、例えば十牛の庭<sup>\*29</sup>(圓光寺)、獅子咆哮の庭<sup>\*30</sup>(宝巖院)、龍吟庭(龍源院:須弥山)、波心庭(光明院:三尊石<sup>\*31</sup>)、六道の庭<sup>\*32</sup>(南禅寺本坊)、十六羅漢の庭<sup>\*33</sup>(地藏院、妙蓮寺)など仏教を専ら象徴する庭園もある。また全ての仏教庭園になんらかの思想が反映されているとは言えないだろう。しかし、ここで取り上げなかった龍安寺の石庭でさえも、石組を海に浮かぶ島と見れば、蓬萊庭園と見ることが出来る。

この様に、中国の庭園文化の移入に始まり現代まで日本庭園の根幹は一貫して神仙思想に基づく蓬萊庭園であった(表 1)。

仏教庭園には、神仙的要素と仏教的要素が混在した庭園が見られる。奈良時代の日本最初の枯山水庭園と言われる園城寺の石庭の石組は、一種の蓬萊的構成を持っているが、仏教的三尊石組みの手法に近く(仏教世界の中心である)須弥山式石組と見ることが出来る(重森 1946)。平安時代の法金剛院の浄土庭園には神仙思想の鶴島(と亀島)がある。奈良本(1955)によると、室町期に足利義満は北山山荘の鏡湖池庭園に浄土庭園を実現しようとした。池の葦原島には仏教庭園を象徴する三尊石が据えられ、池の中には(須弥山を取り巻く)九山八海石<sup>\*34</sup>や夜泊石(彼岸<sup>\*35</sup>へ渡す船の泊まり場)がある。一方神仙思想の鶴島と亀島があり葦原島は蓬萊を表しているとも出来る(重森 2013)。昭和時代の重森三令作庭の東福寺本坊方丈南庭には蓬萊、方丈、瀛州と壺梁の四仙島が仏教世界の八海の中に浮かび、奥には京都五山を表す築山が配置されている。この様に古代から近代まで神仙思想と仏教思想が混在した仏教庭園が造られてきた。

龍安寺の石庭は石組みの配置から七五三の庭とも言われる。同様に、大徳寺本坊方丈東庭園、大徳寺真珠庵東庭園、正伝寺の石庭も七五三の庭と呼ばれている。七、五、三は奇数で中国古来の陰陽では縁起の良い数字とされ、これらの庭は陰陽思想に基づいている。しかし陰陽思想のあらゆる事物を陰と陽に二分する二元思想<sup>\*36</sup>は、仏教の一元的世界<sup>\*37</sup>(中道<sup>\*38</sup>)とは全く相反する。

神仙思想や陰陽道などの異なる思想がこだわり無く混在するのが日本の仏教庭園で

ある。こうした点から、曹（2004）は日本の庭園は複数の思想による作庭手法が見事に統一されて配置され、それでいてなんの不自然さも感じられない点が特徴であろうと述べている。

日本の庭園ではその要素を「見立て\*39」という手法で提示し、具体的な蓬莱山や鶴亀を設置して見せるわけではない。蓬莱山や鶴や亀の象徴となる築山や石組や島で暗示的に示しているに過ぎない。そのためにこれらの神仙思想的要素は顕示されず仏教寺院の庭に溶け込んでいる。重森（1946）は、幽玄\*40を例に、秘すること、隠すことはそれ自体芸術の本質であると考えられる、と述べている。

一方、日本庭園はこうした定型的要素を組み込んだために様式美はあってもその枠を越えたユニークな芸術へとは発展しなかった。

### 山水画と庭園

日本の枯山水庭園が山水画\*41の影響を受けていることが指摘されている（重森1946、吉川1971、曹2004）。室町時代の庭園の相伝書「山水並野形図」には、山水画を庭に移す様に書かれている（重森1946）。実際、室町期に中国との交易により水墨画などが輸入され、造園主である足利家や寺院に多くの書画が持ち込まれた（重森1946、宮崎2018）。寺院は仏教に始まり中国の進んだ文化・芸術を受け入れる機関であった。

宮崎（2018）によると、中国古代の自然観では、山川には神々（神仙）が住むと考えられていた。自然を描いた山水画が、すべてなんらかの意味で神仙の住む世界、仙界と無縁ではない。山は、俗世を避けた隠逸や隠棲\*42の理想の地ともなり、隠逸と神仙世界は重なっている。庭園も山水画も、自然を創造的に再現あるいは抽出した世界である。自然は訪れるべき、隠れ住むべき世界であり、また同時に仙人たちの住む仙界、永遠の世界でもあった。寺院の襖絵によく見られる水墨画の竹林の七賢図\*43や寒山拾得図\*44は隠逸を象徴している。瀟湘八景図\*45の「洞庭秋月」の描かれる洞庭湖は仙境とされる（宮崎2018）。

枯山水庭園が山水画を写しているとすれば、山水画が仙界を描いている以上、寺院の枯山水庭園は必然的に神仙思想を取り入れていると言える。

### 作庭者\*46と庭園

日本の庭園は、仏教伝来（6世紀）を前後して朝鮮半島経由で大陸の神仙思想の庭園文化が移入され、初期の大規模な作庭\*47には大陸からの渡来人が係わったと考えられる。

11世紀（平安）中期以後浄土思想が貴族・武家社会に浸透し、寺院や別荘に極楽浄土の地上における再現として浄土庭園が作られる様になった。この庭は浄土曼荼羅の構造に従っていなければならず、このような高度な知識を身につけていたのは僧であった。これらの僧は平安末期に専門化して作庭者としての石立僧になった。庭には三尊石、両界石、明王石、また磯に立てる石は金剛界\*48、池に立てる石は胎蔵界\*49、といった密教曼荼羅\*50の影響が見られる（伊藤・山本1970）。11世紀末に著された「作庭記」には、遣水\*51（やりみず）の流れの方向、屋敷の地相学、神仙島などはいずれも道教に基づく四神思想に由来しており、密教的側面では滝は不動明王の顕現であり、

庭の未申（南西）方向に三尊仏を象徴する三つの石を立てれば魔縁が入るのを防げるとされている（伊藤・山本 1970）。

中世は密教ではなく禅宗が支配層に浸透し、作庭は密教系の石立僧から作庭やその維持・管理に使役していた山水河原者に引き継がれた。作庭理論の道教の神仙思想や陰陽五行説に係わる部分は引き継がれ、足利義満の北山殿（や足利義政の東山殿）の庭園に日本化された神仙島が作られている（伊藤・山本 1970）。

江戸時代の初期に作庭者としての河原者は姿を消し、小堀遠州などの武士が作庭に係わった。明治以後の庭は身分によらない現代の造園家の手による。

以上、庭の作庭者は時代を追って、大陸からの渡来人、仏教の僧（石立僧）、山水河原者、武家、近・現代造園家が主としてその時代の庭園の作庭に係わった。日本の庭は当初より神仙思想に基づく庭園様式が移入され、それが作庭に係わる相伝書などを通じて時代の作庭者に受け継がれた。仏教の僧は深い仏教的知識を持っていたが、移入された中国仏教そのものが他思想をも受容するものであった。その後仏教と習合した神道は中国道教の影響を受けていた。そういう意味でも仏教庭園に神仙的要素が入り込んだことは自然だと見ることができる。

石立僧、山水河原者、武家や近・現代造園家は自らの美意識に従って、依頼者の寺院の意図に加えて、仏教という絆にそれ程縛られずに庭園の様式美を追求したと思われる。退蔵院の方丈西庭園では、絵師の狩野元信は常緑樹\*<sup>52</sup>を主に植え、一年中変わらぬ「不変の美」を求めたと見られる（松山 2016）。また、不老不死という意味では、石や砂を用いた枯山水そのものが刹那的\*<sup>53</sup>でなく恒常性を持っている。寺院側も強い宗教的精神性より、悟りを得るための安らかで静寂な心を得る庭園美を求めたのではないか。

## 結論

京都を中心に仏教寺院に多くの神仙思想に基づく蓬莱庭園が見られた。作庭時期は奈良期から現代の令和まで庭園が積極的に造られた全ての時期にわたる。教えの異なる仏教宗派にかかわらず蓬莱庭園が造られた。また寺院以外の庭にも蓬莱庭園が多く見られる。従って、日本庭園の根幹は一貫して神仙思想に基づく蓬莱庭園であったと結論することができる。仏教庭園がその重要な部分を占めていた。

こうした仏教庭園に蓬莱鶴亀庭園の造営を可能にした要因は多岐にわたると考えられる。

（1）日本には神仙思想の仙境に相当する常世思想があり、神仙思想が我が国に浸透する素地があった。山や川に神々が宿るという中国の神仙思想は、山や森や川に神が宿るという日本古来の思想と共通していた。また、日本に導入されたのは宗教として確立された教団的道教ではなく「神仙思想」であった。

（2）我が国に導入された仏教は中国で発展した仏教であって、中国の仏教が神仙思想を含む様々な思想を包含するものであった。

（3）導入された日本の仏教は神道と習合し、その神道は神仙思想に基づく道教の影響を受けていた。

(4) 日本の庭園は、中国の神仙思想に基づく庭園様式を初期に導入してスタートし、その様式を受け継いだ。

(5) 室町期以後寺院に造られた枯山水庭園は、神仙思想を反映した山水画を写す様に造られた。

(6) 庭園の鶴亀蓬萊の神仙的要素は、見立ての手法で暗示的に配されていて、見る者に具体的な神仙思想としては捉えられなかった。

(7) 仏教寺院の作庭家は、導入初期の神仙思想に基づく中国の作庭様式を継承し、石立僧、山水河原者、武家や近・現代の作庭家は自らの美意識に従って、仏教という絆にそれ程縛られずに、庭園の様式美を追求したと思われる。

(8) 仏教寺院の庭の蓬萊鶴亀は、成仏し永遠の命を得る極楽浄土を観想するための装置であったとも考えられる。

こうした幾つもの要因が仏教庭園に蓬萊鶴亀庭園の造営を可能にしたと考えられる。日本の受容的な仏教の庭園の単に美的要素として蓬萊鶴亀が用いられているなら、神仙思想をことさら取り上げた問題設定は無意味なのかも知れない。

しかし、例えば禅の庭では、「禅の庭は簡素、素朴といった厳しい精神性を具象している」(曹 2004)。「作庭は修禅の一法であり、常人では理解しがたいと思われる高踏的な禅の哲学が媒介している」(伊藤・山本 1970)。「応仁の乱以後の枯山水は、禅宗的な好みに応じて、禅宗化したと見ることができる」(重森 1946)。等、禅寺院の枯山水庭園は禅の純粋な精神性や哲学を反映していると見る向きがあり、上に挙げた諸要因から諸行無常の仏教寺院に神仙思想の鶴亀蓬萊庭園が存在する矛盾を説明できない。

釈迦の教えの一つに諸法無我\*<sup>54</sup> (物事はみな依存し合って存在し、単独では存在しない)がある。これに関して大乘仏教(中論\*<sup>55</sup>)は、諸法(この世に存在する有形・無形の一切のもの)は相互に依存していることによって成立している(相依性\*<sup>56</sup>、そうえしょう)と説く。つまり、浄は不浄によって浄であり、不浄は浄によって不浄である。従って両者は独立には存在しない(空\*<sup>57</sup>、くう)と主張する(中村 2002)。この論理に従えば、諸行無常は不老不死によって諸行無常であり、不老不死は諸行無常によって不老不死であり、相依関係と見ることができる。諸行無常の仏教庭園に不老不死を説く神仙思想の蓬萊鶴亀庭園が存在することに仏教的観点から矛盾はないと考えることが出来る。

道教では、「絶対」は「相対」であり、不死は永遠の変化の中に存すると言う(岡倉天心 1906)。つまり、蓬萊鶴亀庭園が象徴する不老不死(絶対的不変)は諸行無常の相対なのだ。岡倉天心は禅そのものが「相対性」の崇拜とも言う。

#### 引用文献

伊藤ていじ・山本建三(1970) 枯山水 淡交社

井上順孝(2006) 神道入門 平凡社

上野 誠(2015) 日本人にとって聖なるものとは何か 中央公論新社

- 岡倉天心 (1906) *The book of Tea* (千宗室 (序・跋) 浅野晃 (訳) (1998) 茶の本 講談社)
- 神塚淑子 (2020) 道教思想 10 講 岩波書店
- 河原武敏 (2004) 秦漢時代庭園の神仙施設 日本庭園学会誌 2004 (12) : 7-14
- 木村三郎 (1990) 我が国造園新源流考 造園雑誌 53(5) : 30-36.
- 京都林泉協会編 (2002) 日本庭園鑑賞便覧 学芸出版社
- 重森三玲 (1946) 枯山水 大八州出版
- 重森千青 (2013) 日本の 10 大庭園 祥伝社
- 島尾 新 (2019) 水墨画入門 岩波書店
- 下出積興 (1968) 神仙思想 吉川弘文館
- 曹 岩 (2004) 日中庭園から見る「神仙思想」—特に「石」を中心として 人間文化学研究集録 13 : 19-40
- 中村 元 (2002) 龍樹 講談社
- 奈良本辰也 (1955) 京都の庭 河出書房
- 松尾哲成 (1992) 曇鸞浄土教の成立背景の一考察 印度学仏教学研究 40 (2) : 78-80
- 松山大耕 (2016) 京都、禪の庭めぐり PHP 研究所
- 宮崎法子 (2018) 花鳥／山水画を読み解く 筑摩書房
- 吉川 需 (1971) 枯山水の庭 (日本の美術 61) 至文堂
- 渡辺照宏 (1958) 日本の仏教 岩波書店

## 注

- \*<sup>1</sup>Why are gardens based on Taoism present in Japanese Buddhism temples?
- \*<sup>2</sup>Good will Guide on Kyoto on Handicraft and Historical Sites
- \*<sup>3</sup>IMURA, O.
- \*<sup>4</sup>諸行無常 : Life is impermanence or Everything is changing
- \*<sup>5</sup>不老長寿 : eternal youth and longevity
- \*<sup>6</sup>道教思想 : Taoism
- \*<sup>7</sup>神仙思想 : belief in divine immortal or Taoism
- \*<sup>8</sup>蓬萊鶴亀庭園 : Taoism gardens with symbols of fairy mountain, crane and tortoise
- \*<sup>9</sup>池泉庭園 : pond garden
- \*<sup>10</sup>枯山水庭園 : dry landscape garden or Japanese rock garden
- \*<sup>11</sup>民間信仰 : folk belief
- \*<sup>12</sup>神仙 : hermits
- \*<sup>13</sup>神山 : sacred mountain or holy mountain
- \*<sup>14</sup>易 : divination or fortunetelling
- \*<sup>15</sup>陰陽 : Yui-Yang
- \*<sup>16</sup>神仙境 : fairyland
- \*<sup>17</sup>大乘仏教 : Mahayana Buddhism、(cf. 上座部仏教 : Hinayana Buddhism)
- \*<sup>18</sup>多仏 (多神) 思想 : polytheism

- \*19 浄土 : Pure Land
- \*20 表意文字 : ideogram (cf. 表音文字 : phonogram)
- \*21 ご神体 : an object of worship
- \*22 仙薬 : elixir or panacea
- \*23 遣隋使 : missions to Sui、遣唐使 : missions to Tang
- \*24 須弥山 : Mt Sumeru
- \*25 呉橋 : an arched bridge
- \*26 石組 : stone arrangement
- \*27 浄土式庭園 : Pure Land garden
- \*28 龍門瀑 : dragon gate waterfall
- \*29 十牛の庭 : the ten bulls' garden; that represents the way to be enlightened in Zen Buddhism
- \*30 獅子咆哮の庭 : the garden of roaring lion; that represents preaches of Buddha that allow people to believe and follow, like a lion allows beasts to obey by roaring loudly
- \*31 三尊石 : triad stones
- \*32 六道の庭 : the garden of six realms; that represents the transmigration through six realms depending on the previous life
- \*33 十六羅漢 : 16 saints of Buddhism
- \*34 九山八海石 : stones representing 9 mountains and 8 seas that surround Mt Sumer in Buddhist cosmology
- \*35 彼岸 : the world of Buddha (cf. 此岸 : this world)
- \*36 二元思想 : dualism
- \*37 一元思想 : monism
- \*38 中道 : middle way
- \*39 見立て : a Japanese garden technique that uses symbolic elements to represent metaphorically something concrete in the garden
- \*40 幽玄 : subtle profundity
- \*41 山水画 : landscape painting
- \*42 隱逸、隱棲 : seclusion
- \*43 竹林の七賢 : Seven Sages of the Bamboo Grove
- \*44 寒山拾得図 : Two Zen priest recluses with strange behaviors; Two are important motif of Zen painting
- \*45 瀟湘八景 : eight views of Xiaoxinag; beautiful scenes of the Xiaoxiang in Huan province, China
- \*46 作庭者 : landscape gardener
- \*47 作庭 : landscape gardening
- \*48 金剛界 : Diamond realm; the metaphysical space inhabited by the Five Tathagatas (五智如来) in esoteric Buddhism.
- \*49 胎蔵界 : Womb realm; the metaphysical space inhabited by the Five Compassion Buddhas in esoteric Buddhism.
- \*50 密教曼荼羅 : Mandara : The world of enlightenment of Tathagatas symbolized by their spatial



positions

\*<sup>51</sup> 遣水 : Yarimizu stream; a small stream introduced in the garden

\*<sup>52</sup> 常緑樹 : evergreen trees

\*<sup>53</sup> 刹那的 : transient

\*<sup>54</sup> 諸法無我 : Nothing is independent or Everything is interdependent

\*<sup>55</sup> 中論 : Fundamental verses of the Middle Way; fundamental text of Mahayana philosophy  
composed by Nagarjuna (龍樹)

\*<sup>56</sup> 相依性 : interdependence

\*<sup>57</sup> 空 : emptiness or non-being

表 1 京都・滋賀の仏教寺院の蓬萊鶴龜庭園

A 京都・滋賀の仏教寺院の蓬莱鶴亀庭園*							2020.9.30	
京・滋	寺院名称	宗派	庭	形式	時代	作庭者	史跡・名勝	備考
1	滋賀 園城寺	天台宗門派	園備井石庭	枯山水	奈良			本最古の石庭
2	京都 法金剛院	律宗	浄土庭園	池泉廻遊	平安	伊勢房林賢・徳大寺静意	特別名勝	石立僧
3	京都 勘修寺	真言宗山階派		池泉舟遊	平安			
4	京都 南禅院	臨済宗南禅寺派		池泉廻遊	鎌倉	伝夢窓疎石	史跡・名勝	僧
5	滋賀 圓満院	天台宗単立		池泉廻遊	室町	伝相阿弥	名勝	山水河原者
6	京都 天龍寺	臨済宗天龍寺派	曹源池庭園	池泉廻遊	鎌倉	伝夢窓疎石	特別名勝・特別史跡・世界遺産	僧
7	京都 退蔵院	臨済宗妙心寺派	方丈西庭(元信の庭)	枯山水	室町	狩野元信	名勝	絵師
8	京都 雲雲院	臨済宗妙心寺派	書院南庭園	枯山水	室町	子建西堂	史跡・名勝	僧
9	京都 西芳寺	臨済宗単立		池泉廻遊	室町	夢窓疎石	史跡・特別名勝・世界遺産	僧
10	京都 鹿苑寺	臨済宗相国寺派		池泉廻遊	室町		特別名勝・特別史跡・世界遺産	
11	京都 慈照寺	臨済宗相国寺派		池泉廻遊	室町	小四郎、又三郎等?	特別名勝・特別史跡・世界遺産	山水河原者
12	京都 芬陀院	臨済宗東福寺派	方丈南庭	枯山水	室町	雪舟(重森三玲復元)		絵師
13	京都 大仙院	臨済宗大徳寺派	方丈東庭園	枯山水	室町	相阿弥	史跡・特別名勝	山水河原者
14	京都 天授庵	臨済宗南禅寺派	書院南庭	池泉廻遊	室町	小堀遠州?		武家
15	滋賀 旧秀隣寺庭園	曹洞宗	旧秀隣寺庭園	池泉廻遊	室町	伝足利義晴	名勝	武家
16	滋賀 唯念寺	浄土真宗大谷派	行基の庭	枯山水	室町			
17	京都 醍醐三寶院	真言宗醍醐派		池泉廻遊	桃山	賢庭、与四郎、仙	特別名勝・特別史跡・世界遺産	山水河原者
18	滋賀 聖樂來迎寺	天台宗		枯山水	桃山			
19	滋賀 金剛輪寺	天台宗	東庭	池泉廻遊	桃山		名勝	
20	滋賀 光浄院	天台宗門派		池泉廻遊	桃山		名勝・史跡	
21	滋賀 汲月亭	(天台宗)	旧妙覚院庭園	枯山水	桃山			民間企業所有
22	京都 玉鳳院	臨済宗妙心寺派	風水泉の庭	枯山水	桃山		史跡・名勝	
23	京都 聚光院	臨済宗大徳寺派	方丈庭園(百石の庭)	枯山水	桃山		史跡・名勝・天然記念物	
24	京都 宝鏡寺	臨済宗単立	南庭	枯山水	桃山			
25	京都 圓徳院	臨済宗建仁寺派	北庭	枯山水	桃山	賢庭(小堀遠州)		山水河原者
26	京都 本法寺	日蓮宗	巴の庭	枯山水	桃山	本阿弥光悦		絵師
27	京都 曼殊院	天台宗	書院庭園	枯山水	江戸		名勝	
28	京都 蓮花寺	天台宗		池泉廻遊	江戸			
29	京都 宝泉院	天台宗	鶴亀庭園	池泉廻遊	江戸			
30	京都 毘沙門堂	天台宗		池泉廻遊	江戸			
31	滋賀 教林坊	天台宗	遠州庭園	池泉廻遊	江戸	伝小堀遠州	名勝	武家
32	滋賀 滋賀門跡	天台宗		池泉廻遊	江戸	伝小堀遠州	名勝	武家
33	滋賀 西明寺	天台宗	蓬莱庭	池泉廻遊	江戸		名勝	
34	滋賀 円満院	天台宗門派		池泉廻遊	江戸		名勝	
35	京都 高台寺	臨済宗建仁寺派	観月池庭園	池泉廻遊	江戸	小堀遠州?	史跡・名勝	武家
36	京都 禰思庵(一休寺)	臨済宗大徳寺派	方丈北庭	枯山水	江戸	石川大山	名勝	武家
37	京都 芳春院	臨済宗大徳寺派	花岸庭	枯山水	江戸	伝小堀遠州(中根金作修復)		武家
38	京都 興臨院	臨済宗大徳寺派		枯山水	江戸	(中根金作復元)		
39	京都 金地院	臨済宗南禅寺派	方丈南庭	枯山水	江戸	小堀遠州	史跡・特別名勝	武家
40	京都 東海庵	臨済宗妙心寺派	書院西庭園	枯山水	江戸		史跡・名勝	
41	滋賀 龍潭寺	臨済宗妙心寺派	書院東庭	池泉廻遊	江戸	伝小堀遠州		武家
42	滋賀 大池寺	臨済宗妙心寺派	蓬莱庭園	枯山水	江戸	伝小堀遠州		武家
43	京都 東福寺普門院	臨済宗東福寺派		枯山水	江戸			
44	京都 聖雲寺	曹洞宗		枯山水	江戸			
45	京都 源光庵	曹洞宗	鶴亀の庭	枯山水	江戸			
46	滋賀 青岸寺	曹洞宗		枯山水	江戸		名勝	
47	京都 西本願寺	浄土真宗本願寺派	虎溪の庭	枯山水	江戸	朝霧嶋之助?	史跡・特別名勝	
48	京都 涉成園	浄土真宗大谷派	涉成園	池泉廻遊	江戸	石川大山	名勝	武家
49	滋賀 大通寺	浄土真宗大谷派	含山軒庭園	枯山水	江戸		名勝	
50	京都 泉涌寺	真言宗泉涌寺派	御座所庭園	枯山水	明治			
51	京都 龍源院	臨済宗大徳寺派	一枝垣	枯山水	昭和			
52	京都 瑞峯院	臨済宗大徳寺派	方丈南庭(独座庭)	枯山水	昭和	重森三玲		造園家
53	京都 東福寺	臨済宗東福寺派	方丈南庭	枯山水	昭和	重森三玲	名勝	造園家
54	京都 一華院	臨済宗東福寺派	彷彿の庭	枯山水	昭和	重森千青		造園家
55	京都 南禅寺本坊	臨済宗南禅寺派	蓬莱神仙庭	枯山水	昭和			
56	京都 建仁寺	臨済宗建仁寺派	○△□の庭	枯山水	昭和	北山安夫		造園家
57	京都 光明寺	西山浄土宗		枯山水	昭和			
58	京都 宝泉院	天台宗	宝楽園	枯山水	平成			
59	京都 三室戸寺	本山修験宗	与楽苑	枯山水	平成	中根金作		造園家
60	京都 靈源院	臨済宗建仁寺派		枯山水	令和	中根金作研究所		造園家
B 京都・滋賀の仏教寺院以外の蓬莱鶴亀庭園*								
京・滋	寺院名称	施設	庭	タイプ	時代	作庭者	史跡・名勝	備考
1	滋賀 松尾神社	神社		枯山水	桃山			
2	滋賀 多賀大社	神社	奥書院庭園	池泉廻遊	江戸	小堀九朗兵衛	名勝	
3	京都 二条城	城	二の丸庭園	池泉廻遊	江戸	小堀遠州	特別名勝・史跡・世界遺産	大名庭園
4	滋賀 彦根城	城	玄宮園	池泉廻遊	江戸		名勝	大名庭園
5	京都 平安神宮	神社	南神苑	池泉廻遊	明治	七代目小川治兵衛	名勝	造園家
6	京都 松尾大社	神社	蓬莱の庭	枯山水	昭和	重森三玲		造園家
7	京都 城南宮	神社	室町の庭	池泉廻遊	昭和	中根金作		造園家
8	京都 御香宮神社	神社		枯山水	昭和	中根金作		造園家
9	京都 重森三玲庭園美術館	他	無字庵庭園	枯山水	昭和	重森三玲		造園家

\* 確認出来た庭園  
主な参考文献  
水野克比古(2002) 京都名庭園 光村推古書院  
伊藤ていじ・山本建三(1970) 枯山水 淡交社  
重森三玲(1946) 枯山水 大八州出版  
繩手 真人(2018) 庭園ガイド <https://garden-guide.jp> 2020.9参照  
アノマス(2006) 京都風光(京都寺社案内) <https://kyotofukoh.jp> 2020.9参照